

## アンケート調査報告書から読み取れる事

## 時間外保育（延長保育）事業

## ●事業内容

保護者の就労形態の多様化に対応するため、通常開所時間を超えて保育を実施しています。

## P24 問 15

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況で保育所、幼稚園を利用しているご家庭は 84.6% になります。

保育所の通常保育は 1 1 時間の開園となっております。その前後の時間について、延長保育となります。

問 15-2 で現在と希望の開始時間、終了時間を比べると延長保育にあたる時間が若干ですが希望では増えているように伺えます。ただ、希望については「1 日あたりの利用時間」、「開始時間」、「終了時間」での無回答がどれも 37% 近くなので、詳しい希望が読み取りづらいように思われます。

## 【補正のポイント】

ニーズ調査からの量の見込みと実績の数値を比較して、確保方策については検討が必要と思われる。

## 地域子育て支援拠点事業

## ●事業内容

公共施設や保育所等の身近な場所などで子育て中の親子の交流・育児相談等の基本事業を実施しています。

また、その他として、交流の場の提供、交流促進、子育てに関する相談・援助、地域の子育て関連の情報提供、子育て支援に関する講習等があげられます。

- ・西中学校区 1 ヲ所
- ・東中学校区 1 ヲ所
- ・南中学校区 4 ヲ所
- ・児玉中学校区 4 ヲ所

**P29～ 問 17**

類似の事業を含めて 11.1%の人が利用しており、利用回数は月 1、2 回の割合が多いようです。

ただ、86.5%の人が「利用していない」と答えております。

**P30～ 問 18**

今は「利用していないが、今後利用したい」という人が 26%いますが、62.2%が「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」と回答しています。

**P31～P33 問 19**

認知度は 83.1%と高く、利用したことがあるは 51.9%と半数が利用したことがあります。今後利用したいかという問いには 48.9%の人が「はい」と答えています。

**【補正のポイント】**

利用している人、今後は利用したいという人がいらっしゃいますが、利用状況では 1 割にとどまっています。今後、利用意向から増加が見込まれますが、平日の定期的な教育・保育事業の利用で保育所、認定こども園、地域型保育などを選択している世帯については量の見込みの推計から差し引きます。

**ファミリー・サポート・センター事業**

**●事業内容**

児童の預かり等の援助を受けることを希望する者（依頼会員）と、援助を行うことを希望する者（提供会員）との相互援助活動に関する連絡・調整を実施しています。

保育所、幼稚園の登園前の預かり及び送り、学童保育の迎え及び帰宅後の預かり等があります。

・委託先 本庄市社会福祉協議会

**P31～P33 問 19**

認知度は 43.1%ですが、利用したことがあるは 3.0%と低くなっています。今後の利用については 37%の人が利用を考えております。

**【補正のポイント】**

いろいろなところで利用されている事業ではありますが、利用状況 3.0%となっております。量の見込みについては現在の利用回数等の実績を加味します。

## 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）

### ●事業内容

宿泊を伴う事業で保護者が、疾病・疲労などの身体上、精神上、環境上の理由により児童の養育が一時的に困難になった場合に、乳児院や児童養護施設など保護を適切に行うことができる施設において養育・保護を行っています。

・委託先 市内1カ所 上里1カ所 深谷2カ所 寄居1カ所

<就学前児童>

P31～P33 問19

認知度は17.7%となっており、利用したことがあるは1.4%と低くなっています。今後の利用については22.9%の人が利用を考えております。

<小学校児童>

P102～ 問29～

保護者の用事などにより、お子さんを泊りがけで預けなければならなかったという問いに7.2%が「あった」と答え、その内の92.6%が「親族・知人に預けた」となっています。

### 【補正のポイント】

事業の認知度が低く、事業の周知が必要ですが、宿泊を伴う事業のため利用者が増加することは考えにくいことから、量の見込みについては実績を加味します。

## 保育園（幼稚園）での一時預かり事業

### ●事業内容

家庭において保育を受けることが、一時的に困難になった乳児又は幼児について、主として昼間に保育所その他の場所において、一時的に預かっています。

P31～P33 問19

認知度は81%と高く、利用したことがあるは29.3%となっています。今後の利用については56.1%の人が利用を考えております。

### 【補正のポイント】

一般的に知られているようですが、利用状況について数値的にはやや低いように見えますが、今後の利用で6割近くとなっていますので、実績と比較、検討が必要です。

## 病児・病後児保育事業

### ●事業内容

児童が発熱等の急な病気になった場合、病院・保育所等に付設された専用スペース等において看護師等が一時的に保育する事業、及び保育中に体調不良になった児童を保育所の医務室等で看護師等が緊急的な対応を行っています。

・西中学校区 2カ所

### P37～38 問 22、22-1

平日の定期的な教育・保育を利用しているご家庭でお子さんが病気やけがの際には 72.7%が利用できず、「母親が休んだ」というのが 73.5%と高く、「病児・病後児の保育を利用した」のはわずか 1.0%という数値でした。

### P39～40 問 22-2

「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」という人は 28.2%で、「利用したいとは思わない」とした人は 71.1%と高く、理由として「他人に看てもらうのは不安」、「親が仕事を休んで対応する」という意見が多かったです。

### 【補正のポイント】

仕事は休みづらいが仕事を休んで自分で看たいと考えている人が多く、病気やけがのお子さんを預けることには抵抗があるように伺えます。

病児保育を利用するのは必要にせまられている人と思われれます。

利用実績及び利用希望を勘案して算出します。

## 放課後児童クラブ（学童保育）

### ●事業内容

共働き家庭など留守家庭の概ね 10 歳未満の児童に対して、児童館や学校の空き教室、公民館などで放課後に適切な遊び、生活の場を与えて健全育成を図っています。

<就学前児童>

### P48～53 問 26～29

放課後の過ごし方について、低学年時は 43.4%、高学年時は 26.4%の親が放課後児童クラブを利用させたいと考えています。

ただ、どちらも自宅、習い事という意見も多くありました。

利用時間については下校から午後 5 時もしくは午後 6 時までが多いようです。

また、お子さんの長期休暇中（夏休み・冬休み）の利用について、「低学年の間は利用したい」が 37.7%、「高学年になっても利用したい」が 21.7%ありました。

P70 問 41

希望設置場所については「学校の施設内」と「学校の敷地内の別棟」を合わせて、79.7%という高い数値でした。

<小学校児童>

P83～ 問 12～

放課後児童クラブの利用状況は「利用している」が31.3%で、「利用していない」が68.3%になっています。「利用していない」と回答した人のうち31.8%が「現在就労していないから」を選んでいますが。今後の利用意向においても「利用したい」は12.2%でした。就労との係わりで利用意向も低いように伺われます。

複数回答で低学年時の放課後の過ごし方の希望で、放課後児童クラブは32.9%でした。

また、同じく高学年時には21.6%の希望でした。

**【補正のポイント】**

数値で見ると、自宅、習い事という意見もありますが、利用希望は比較的あり、遅くまでの時間を望んでいるようです。

高学年の利用希望もありますが、学年が上がるほど減少傾向があり、概ね10歳前後は自立等が進むことに留意が必要であると思います。